

もっとウエストナイル熱を知りたい方に



- ウエストナイル熱・脳炎Q&A (厚生労働省編)
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1b.html>
- ウエストナイル熱の診断・治療ガイドライン
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1a.html>
- 感染症の診断・治療ガイドラインの追補 (ウエストナイル熱)
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/dl/tp1023-1c.pdf>
- ウエストナイルウイルス (国立感染症研究所)
<http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/WNVhomepage/WN.html>
- ウエストナイルウイルス (日本ウイルス学会)
http://virus.bcasj.or.jp/WNV_top.htm
- ホームページ「動物由来感染症を知っていますか?」
<http://www.forth.go.jp/mhlw/animal/>

米国・カナダに行く方に



- 厚生労働省検疫所のホームページ(海外渡航者のための感染症情報)
<http://www.forth.go.jp/>
- 米国疾病予防センター (CDC) のホームページ (West Nile Virus: 英文情報)
<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm>
- 米国の市民向け予防パンフレット (英文情報)
West Nile Virus Is A Risk You Can Do Something About With A Few Simple Steps.
http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/resources/WestNileInfoCard2003_small.pdf

厚生労働省の取り組みを知りたい方に

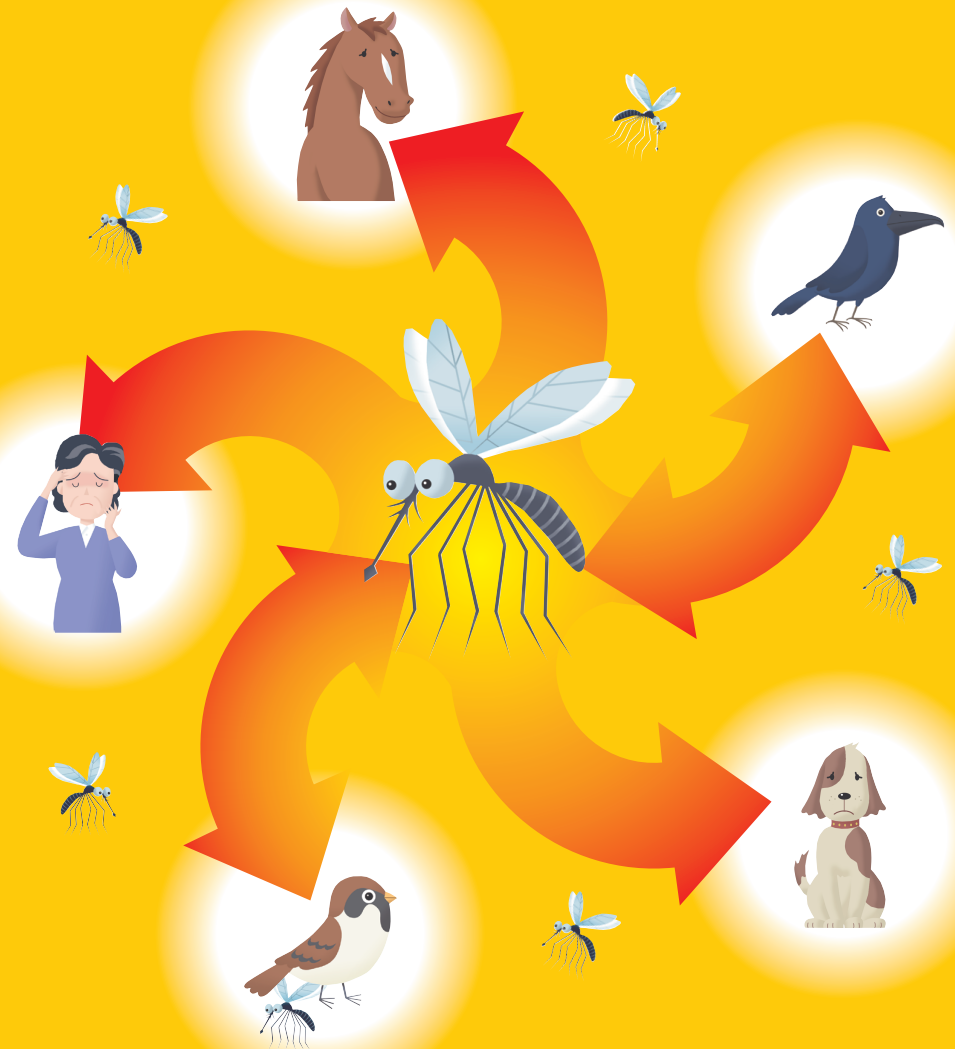


- 我が国でも次のような対策を行っています。
- ウエストナイル熱についての知識の普及**
一般の方向けのQ&Aや、専門家向けのガイドラインを作成・提供しています。
 - 患者発生動向調査**
国内での患者さんの発生を把握する体制が整備されています。
 - 感染源動物の発生動向調査**
国内での感染源動物(鳥類)の発生を把握する体制が整備されています。
 - 空港での対応強化**
米国等への旅行者に情報提供し、帰国時の健康相談も行っていきます。
 - 輸入鳥類の監視**
米国等から鳥を輸入する者には、ウイルス侵入防止の衛生管理を求めています。また平成17年9月1日より、動物の輸入届出制度が開始され、鳥類についてはウエストナイル熱を含めた衛生証明書の添付が義務づけられます。
 - ウエストナイルウイルスの調査**
ウイルスの侵入を早期発見できるように、死亡したカラス等の野鳥や、媒介蚊の調査体制を強化しています。

お問い合わせは最寄りの保健所へ

なお、このハンドブック作成には「人と動物の共通感染症研究会」(<http://www.hdkkk.net/>)のご協力をいただきました。

ウエストナイル熱を知っていますか?



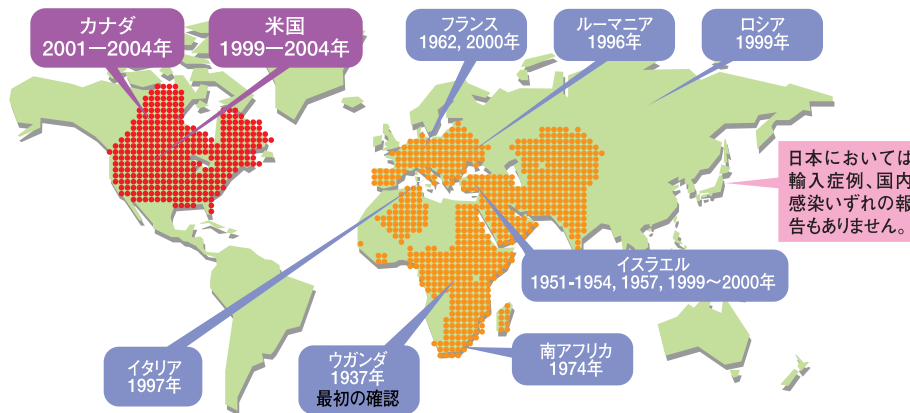
ウエストナイル熱って何だろう？



現在米国・カナダで流行中

1999年、米国のニューヨーク市周辺での流行が報告されたことから、大きな注目を集めるようになりました。その後本年まで毎年流行がおきており、様々な対策が行われています。なお、アフリカ、ヨーロッパ、西アジアなどでこれまでに患者発生が報告されています。近年の主な流行は以下のとおりです。

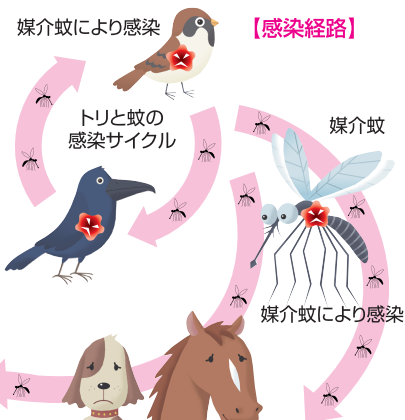
【過去の流行状況】



どうやって人に感染するの？

●野鳥の体内で増えたウイルスが蚊によってヒトに感染

ウエストナイルウイルスは自然界においては、野鳥と蚊の感染サイクルで維持されています。ヒトはウエストナイルウイルスを持った蚊（感染蚊）に刺されることにより感染します。このウイルスを媒介する蚊は、イエカやヤブカなどで、これらの蚊は日本にも生息しています。通常、ヒトからヒトへの直接感染はありません。



どんな症状？

- 多くの人は無症状か感冒の様な症状のみ（症状が出るのは約20%）
- 重症患者は感染者の約1%（主に高齢者）
- 今のところワクチンがないため、治療法は対症療法のみ

ウエストナイル熱は通常2～6日間の潜伏期の後、突然の発熱（39度以上）で発症します。3～6日間の発熱、頭痛、背部の痛み、筋肉痛、食欲不振などの症状があり、約半数で発疹が胸部、背、上肢にみられます。症状は通常1週間以内で回復しますが、その後倦怠感が残ることも多くあります。



現在、ウエストナイル熱が流行している米国・カナダに旅行する時は特に注意しましょう

- 蚊との接触を避ける（蚊の活動期（夕方から夜明けまで）には屋外で過ごすことをなるべく避ける）
- 露出している皮膚への虫除け剤の使用
- 戸外へでるときは、できる限り長袖、長ズボンを身につける

ウエストナイルウイルスが蔓延しているところに住んでいる人は誰でも感染する危険性がありますが、特に高齢者の人は重症になりやすいといわれています。また、日本への入国時に症状などがある場合は検疫所にお申し出ください。

ウエストナイル熱の感染がご心配な方は・・・

まずかかりつけの医師などに相談してください。もし、高熱、激しい頭痛、意識障害、筋力低下などが出た時は急いで受診してください。